

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校

学校番号 5208

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 (2) 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手としての調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) - 基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信を持って自らの人生を切り拓くことのできる生徒 - 協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 - 様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となれる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) - 一人一人の興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力指導 - 少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 - 様々な学校行事や就労体験を通じた自己有用感の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) - 自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意志のある生徒 - 仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 - 卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒

3	評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
4	現状の分析	○基礎学力の習得を促す学習過程の創意工夫を推進している。 ▲生徒間の学力や学習意欲に大きな差があることを考慮する必要がある。	
5	学校の抱える課題	◇一人一人の興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫をさらに進める必要がある。	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒一人一人の学習能力の把握と、基礎的な知識・技能の確実な習得を目指す授業を行う。 ・自主的・自律的な生活態度の育成及び自己有用感を醸成する。	
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 教材の精査、学習内容の精選、指導法の工夫を進めます。 (2) 職員連絡会を毎日行い、授業での生徒の意欲や取組状況を継続的に情報交換して、個に応じたきめ細やかな学習指導を目指します。 (3) 学習到達度の低い生徒に対して学び直しの機会を設けます。 (4) ICT機器の活用を推進して、生徒の学びの充実を図ります。 (5) 評価の観点と基準を明示したシラバスを作成して、年度当初に説明します。 (6) 観点別評価についての検証を行い、評価の最適化を進めます。		(1) 定期考査、授業観察、生徒及び保護者アンケート、授業アンケート等を利用した評価。 (2) 職員の資質向上を目指した校内研修の実施。 (3) 毎日の職員連絡会実施と学習指導への活用。 (4) 成果分析と個への対応の実施。 (5) ICT機器の教授、採点への導入。 (6) 評価の観点、基準のシラバスへの反映。 (7) 適切な学力把握の検証。	

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
- 教材の精査、学習内容の精選、指導法の工夫を進めている。 - 職員連絡会を毎日行い、授業での生徒の意欲や取組状況について継続的に情報交換して、個に応じたきめ細やかな学習指導を実践した。 - I C T機器の活用を推進して、生徒の学びの充実を図った。	①職員の資質向上を目指した校内研修の実施。 ②成果の分析と個への対応の実施。 ③ I C T機器の教授、採点への導入。	A ☒ B C D A ☒ B C D ☒ A B C D
12 成果・課題	○職員連絡会を毎日行い、授業での生徒の意欲や取組状況を継続的に情報交換して、個に応じたきめ細やかな学習指導を進めた。 ○学習到達度の低い生徒に対して学び直しの機会を設定して、学習の充実を図った。 ○ I C T機器の活用を推進して、生徒の学びの充実を図った。 ▲個に応じた指導の充実を一層推進する必要がある。到達度の分析や、個別の支援計画の活用などをさらに充実させることが必要である。	総 合 評 価 A ☒ B C D
13 来年度に向けての改善方策案 個に応じた指導の充実を一層推進し、個別の支援計画の活用などをさらに進める。そのために、職員連絡会を毎日行い、授業での生徒の意欲や取組状況を継続的に情報交換して、個に応じたきめ細やかな学習指導を一層充実させる。学習到達度の低い生徒に対して学び直しの機会を設定し、学習の充実を図る。I C T機器の活用を推進して、生徒の学びの充実を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】 - インターシップはどのように実施しているか。 - フリースクールや通信制に通う生徒も増加しているが、他人との係わりを学ぶ意味からも定時制できめ細かく支援することが望まれる。
--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校

学校番号 5208

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 (2) 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手としての調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	・基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信を持って自らの人生を切り拓くことのできる生徒 ・協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 ・様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となれる生徒	・一人一人の興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力指導 ・少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 ・様々な学校行事や就労体験を通した自己有用感の育成	・自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意志のある生徒 ・仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 ・卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導		
4 現状の分析	○積極的に教育相談に取り組み、生徒の困りごとの解決に向けた対応ができています。 ▲校内の取組が保護者に十分に伝わっていない。		
5 学校の抱える課題	◇本校は学業がおろそかでも卒業できると間違った認識のまま入学を希望する生徒が出てきた。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒の特性を理解し、支援する体制を確立する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒の実態を正しく理解し、個々に応じた支援を実践していくために、職員研修を行い職員のスキルアップに努めます。 (2) 毎日職員連絡会を行い、生徒の行動や心のあり方について情報共有を密に行います。 (3) 保護者、SC、地域支援センター、市役所の福祉課、医療等と連携を図り、生徒にとって望ましい支援方法を模索します。		課題に合致した研修とその実践、職員連絡会の実施と成果、生徒理解のための外部連携の実践等により評価します。 (1) 研修実施とその実践。 (2) 職員連絡会の実施とその成果の検証。 (3) 外部連携の有無とその成果の検証。	

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
① 職員連絡会での情報交換を毎日実施し、全職員が情報を共有し、生徒支援を行った。 ② 懇談、教育相談を計画的に実施した。 ③ 医療、特別支援学校との連携を取って、個別の案件の対応を進めた。	① 個々の生徒の支援に生かすことができたか。 ② 生徒情報を共有し、日頃の指導に生かすことができたか。 ③ 専門家からの助言指導に基づいた適切な対応ができたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
12 成果・課題 ○毎日おこなう職員連絡会で様々な情報交換をし、生徒の細かな変化を見逃さないように注意して職員全体で対応する事ができた。 ○個々で異なった困り感を持つ生徒が多く、その困り感の解消に向けて迅速に対応する事ができた。 ▲発達障がいに関するより専門性の高いケーススタディの研修が必要であると感じた。		総 合 評 価 (A) B C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・ 毎日の情報連絡会については効果的であるために継続していく。 ・ 現在行っているものに加えて、家庭の状況に応じて臨時の懇談を実施する。 ・ 職員研修の中に専門家を招いた発達障害に関するケーススタディを加える。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】 ・ 就業率はどれくらいか。 ・ 中津川市内の中学校では「あったかことば運動」「ほかほか言葉運動」を実施している。中高連携して実施できるとよい。 ・ 発達障がいの生徒は増加傾向である。他校と連携してはどうか。 ・ 発達障がいの学生は大学生にも増えているため、大学職員も毎年研修している。
